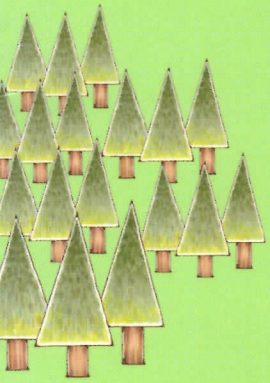
ぐんま日独協会創立30周年記念

30年のあゆみ



1988～2018

ぐんま日独協会30年のあゆみ

目　次

2頁 挨拶・祝辞
ぐんま日独協会会長　鈴木克彬
ドイツ連邦共和国大使　Dr.Hans Carl von Werthern 様
全国日独協会連合会会長 古森重雄 様
群馬県知事 大沢正明 様
前橋市長 山本龍 様

7 歴代会長・受彰の記録
歴代会長、表彰者

8 創立30周年記念事業
創立30周年記念事業、ぐんま日独協会創立30周年記念コンサート「ドイツ音楽紀行」、
ぐんま日独協会創立30周年記念誌「30年のあゆみ」、ぐんま日独協会創立30周年記念品「オリジナルエコバッグ」

9 ぐんま日独協会30年のあゆみ

12 上毛新聞記事から見るあゆみ

15 創立期の思い出
ぐんま日独協会監事　杉本隆雄
ぐんま日独協会副会長　田口久美子
ぐんま日独協会副会長　對馬良一
元太田市医師会会長　鹿山徳男

17 機関誌
ぐんま日独協会会報『Heimat ハイマート』

18 ドイツ親善旅行
創立15周年記念ぐんま日独協会ドイツ親善旅行
日独交流150周年記念ドイツ親善旅行

20 ドイツフェスティバル in ぐんま
「ドイツフェスティバル in ぐんま」の様子
「ドイツフェスティバル in ぐんま」のチラシ

24 群馬とドイツのかかわり
ドイツ大使館内ぐんま展、群馬とドイツのかかわり

25 ぐんま日独協会の活動
草津における全国日独協会連合会年次総会
ドイツ人少女フルートカルテット“FluTeens”演奏会、ドイツ大使の講演とレセプションの夕べ
親睦会（クリスマスの集い、日独協会連合会若手の集い）

28 定例活動
ドイツサロン
ドイツ語教室
クマさんづくり
ドイツ語ニュースを聞く会
ドイツ映画を見る会

30 社会との絆
ヴィーラント全集の寄贈、鈴木克彬会長のテレビ出演
環境問題パネル展、高崎経済大学交換留学生交流会

32 ぐんま日独協会会員名簿
平成 30 年度ぐんま日独協会役員名簿
平成 30 年度ぐんま日独協会会員名簿

編集後記

お蔭様で30年、関係者皆様に感謝申し上げます

ぐんま日独協会会長
鈴　木　克　彬

ぐんま日独協会は現在150名の会員を擁し、このたび創立30年を迎えることができました。これは創立以来、協会の運営、指導等にご尽力いただいた先輩方及び現会員の熱意と努力の賜物と、厚くお礼申し上げます。

また、当協会の運営や諸行事等に関しまして、種々ご指導、ご示唆いただいているドイツ連邦共和国大使館、全国日独協会連合会、ドイツ観光局、ドイツ文化センター、群馬県、前橋市等、各関係機関の皆様にも当協会を代表し、心より感謝申し上げます。

ぐんま日独協会は、今から30年前の昭和63(1988)年に、平形義人氏(医師・渋川市)、木暮金太夫氏(医学博士・伊香保町)、佐藤進一氏(医師・前橋市)、角田勤氏(医師・沼田市)、中澤晁三氏(町会議長・草津町)、小林喬氏(大学教授・玉村町)、中村紘一氏(薬局経営・前橋市)、斎藤民氏(音楽家・高崎市)等の先生方が発起人となり、「ドイツ好き集まれ」の掛け声のもとに設立総会を開催し、平形義人氏を初代会長として誕生したものです。あらためてご尽力いただいた先生方に敬意を表する次第です。

その後、ぐんま日独協会では毎年のようにドイツ大使、有識者の方々を群馬にお迎えし、総会・講演会など、さまざまな行事を行って参りました。

平成17(2005)年には『日本におけるドイツ年』を機に、群馬県庁ホールをお借りして『ドイツフェスティバル inぐんま』を開催いたしました。以来、隔年で開催を続け、昨年は第7回を迎えることができました。

平成20(2008)年から毎月第1土曜日には、ドイツ紅茶店陶豆屋(高崎市)の喫茶スペースをお借りし、『ドイツサロン』を定期的に開催しています。毎回、東京からドイツ人研修生を迎え、本年で延べ120回を超える当協会の大切な行事となっています。

また近年では、『クマさんづくり』、『ドイツ語ニュースを聞く会』、『ドイツ映画を見る会』などユニークな企画に挑戦し、高崎経済大学との連携や若手育成にも努力をしております。

今後は、参加者に「楽しかった」「勉強になった」「ドイツが好きになった」と、ますます感じていただけるような催しを計画していきたいと考えております。

関係者皆様の更なるご支援、ご示唆をいただききたく、よろしくお願いいたします。

ドイツの友人の皆様

ドイツ連邦共和国大使

Dr. Hans Carl von Werthern

Liebe Freunde Deutschlands,

mit großer Freude gratuliere ich der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Gunma zu ihrem großen Jubiläum. Es freut mich sehr, dass auch nach drei Jahrzehnten noch ein so starkes Interesse besteht und die Arbeit des Vereins immer stärker ausgebaut wird. So entstand in den vergangenen Jahren ein breites und regelmäßiges Angebot an Sprachkursen und Filmvorführungen, aber auch Möglichkeiten der direkten Begegnung im Deutschen Salon, beim Deutschen Festival oder auch dem jährlichen Treffen mit deutschen Studenten.

Daher möchte ich mich bei allen Mitgliedern, die das Vereinsleben in den vergangenen Jahren gestaltet haben, für deren großes Interesse und aktives Engagement bedanken. Eine fremde Kultur und Sprache kennen und verstehen zu lernen verbindet Menschen über Grenzen hinweg miteinander und vertieft die vielfältigen kulturellen Verbindungen. Damit trägt dieses Engagement einen wichtigen Teil zum lebendigen Austausch zwischen unseren beiden Ländern bei und unterstützt aktiv die Freundschaft von Deutschland und Japan.

Ich wünsche Ihnen allen weiterhin viel Erfolg und Freude am Austausch über Deutschland, die deutsche Sprache und Kultur und die vielfältigen Aspekte der deutsch-japanischen Beziehungen. Alles Gute für die nächsten 30 Jahre!

Dr. Hans Carl von Werthern

この度、貴ぐんま日独協会が大きな節目の年を迎えられることを大変嬉しく思いますと共に、ここにお祝い申し上げます。創立30周年を迎えてなお、ドイツへの高い関心を持ち続け、貴協会が一層精力的な活動を展開されていることは大きな喜びです。こうした中で、これまで、定期的な語学講座や映画上映会といった幅広いご活動に加えて、ドイツサロン、「ドイツフェスティバル inぐんま」、ドイツ人留学生を囲んだ毎年の交流会を通じて、人々が直接出会う場を提供してこられました。

そのため、これまで協会という組織の生活を構築してこられた全ての会員の方々に対し、その多大なご関心と精力的なご尽力に感謝を捧げます。異国の文化と言語を学び理解することを知ることは、国境を越えて人々を互いに結びつけ、多様な文化的絆を深めます。それにより、こうした尽力は我々両国の活発な交流に欠かせぬ貢献となるとともに、日独友好関係を積極的に支えるものです。

会員の皆様には今後ともドイツ、その言語と文化そして日独関係の多様な側面での交流において多大な成功と大きな喜びを抱かれますことを願いますとともに、次の30年のご多幸を祈念しております。

ドイツ連邦共和国大使
ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン

ぐんま日独協会設立30周年によせて

全国日独協会連合会会長
古　森　重　隆

ぐんま日独協会設立30周年に際し、心よりお祝い申し上げます。

平形初代会長から鈴木現会長までの歴代会長はじめ会員の皆様方の30年にわたるご尽力とご努力により、精力的に活動の幅を大きく広げ、群馬の日独交流の中心的な役割を担ってこられたことに、深く敬意を表します。

また、同じ年に設立した全国日独協会連合会の活動への長年のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

日本医学の基礎を築いたベルツ博士の明治の時代から、群馬県はドイツと深い交流があり、群馬の歴史に刻みこまれております。特にぐんま日独協会は発足当時から民間ベースの交流を深めるべく、県下の自治体、関係機関との連携のもと、具体的な事業を展開されています。

例えば、会報誌「ハイマート」の継続発行や県民の恒例行事となった「ドイツフェスティバル in ぐんま」の開催、日独の人的交流を促進する「ドイツサロン」の開催、さらに最近では「ドイツ語ニュースを聞く会」、「ドイツ映画を見る会」などに常に新しい試みに取り組んでおられます。

他方、群馬の良さを理解していただくために、東京や周辺地域のドイツ人の若者を積極的に招待し、県内視察や行事への参加の機会を提供し、ぐんま日独協会の会員や県民との交流を図っておられます。これからもこのような広域交流によって、日独関係の担い手となる若い世代の育成活動を期待しております。

最後になりますが、ぐんま日独協会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祝い申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

ぐんま日独協会創立30周年によせて

群馬県知事
大澤正明

ぐんま日独協会が創立30周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

この30年間、日本や世界を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中にあっても、ぐんま日独協会の皆様におかれましては、変わらずにドイツと日本、群馬県との交流推進に取り組まれてきました。会員の皆様の御尽力に深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、ドイツは本県との間に深い繋がりがあり、建築家のブルーノ・タウトや医学者のエルヴィン・フォン・ベルツの名前は多くの県民に知られているなどドイツは最も親しみを感じる国の一つであります。

このドイツと群馬県との交流を推進するため、皆様におかれましては、講演会やドイツ語講座の開催などの取組をされてきました。特に、平成17年から県庁県民ホールで開催されている「ドイツフェスティバル」は、年を重ねるごとに盛況となり、ドイツという国をより身近に感じてもらうイベントとして定着しております。

県といたしましても、今後もぐんま日独協会の皆様と連携し、本県とドイツとの交流がいっそう深まるよう取り組んで参りますので、引き続き皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ぐんま日独協会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝を心より御祈念申し上げます。

ぐんま日独協会30年史『30年のあゆみ』
あいさつ

前橋市長
山　本　　龍

このたび、ぐんま日独協会が創立30周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。また、貴会が昭和63年に創立されて以来、長年にわたってドイツとの交流を深め、日本とドイツの国際友好親善に大きく貢献されてきたことに対しまして、深く敬意を表します。

さて、現在、本市では海外の３都市と姉妹友好都市提携を結んでおります。特にイタリアのオルビエート市とは、昨年、友好都市提携20周年を迎えるとともに、本市北部の赤城山南麓地域がオルビエート市に本部を置くスローシティ国際連盟へ加盟しました。

また、本市の外国人登録者数は平成30年７月末時点におきまして、71か国6,600人を超え、今後もさらに増加することが見込まれております。さらに、２年後には「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催され、ホストタウンである本市に海外から多くのアスリートや観光客が訪れることと思われます。

こうした国際化の進展に伴い、多文化共生・相互理解の重要性がますます高まっていく中で、本市においても、国籍などの異なる人々が、お互いの文化や考え方の違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていけるまちづくりを目指しておりますが、もとより、国際交流の主役は市民の皆様であります。どうか、貴会の皆様には、これまで育まれてきた友好関係を礎に、今後とも様々な交流事業を通じて日本とドイツの友好の絆を深めていただきますとともに、本市における国際交流の進展に一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、ぐんま日独協会のますますのご発展と皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、巻頭のごあいさつとさせていただきます。

歴代会長

ぐんま日独協会初代会長　平形 義人

1988(昭和63)～2007(平成19)年	ぐんま日独協会会長
2008(平成20)年４月５日	ぐんま日独協会名誉会長就任
2013(平成25)年４月24日	逝去

初代会長　故平形義人先生を偲ぶ
（ 国際医学界の発展に貢献 ― 石橋長英先生の愛弟子として― ）

平形先生は、旧制武蔵高校から千葉大学医学部に進学、卒業後は海軍軍医として、戦艦長門に乗艦、終戦を迎えられました。終戦後の平形先生は、日本国際医学会の重鎮石橋長英会長の愛弟子として多忙な日々を過ごされ、昭和32年、35年、38年と３度、石橋先生とともに訪独される等、日独の医学会交流に大きく貢献されました。また訪独の際にはお得意の仕舞を現地で度々ご披露され、日独の文化交流にも貢献された、と伺っています。

その後、群馬に戻られた平形先生は、昭和63(1988)年に前橋の佐藤進一先生、沼田の角田勤先生、県立女子大の小林喬先生等、多くの方々の賛同を得て協会設立に尽力され、ぐんま日独協会の初代会長に就任されました。江戸時代のお殿様を彷彿させる魅力的なお人柄は、多くの方々の心を掴み、発足の総会・パーティーには約300名の方々が参集されました。

先生は設立以来、平成20(2008)年までの20年間、会長の職にご尽力くださり、ぐんま日独協会の発展に大きく寄与されました。またその間、全国日独協会連合会の副会長の要職も全うされ、平成20(2008)年５月には、長年の医学会交流及び日独協会としての親善交流の功績に対し、ドイツ連邦共和国ケラー大統領より『勲一等功労十字章』が、平形先生に授与されました。

第２代会長　鈴木克彬

受賞者

受賞年	受賞内容	受賞者
1991(平成3)年	**ドイツ大使表彰**	白倉卓夫教授、角田勤氏
1993(平成5)年	**ドイツ大使表彰**	平形義人会長、他
2001(平成13)年	**群馬県国際交流賞**	ぐんま日独協会
2008(平成20)年	**ドイツ連邦共和国大統領『勲一等功労十字章』**	平形義人会長
2009(平成21)年	**群馬県総合表彰**	ぐんま日独協会
2011(平成23)年	**日独交流150周年記念功労賞**	對馬良一副会長、長谷川早苗事務局員

群馬県総合表彰2009(平成21)年

創立30周年記念事業

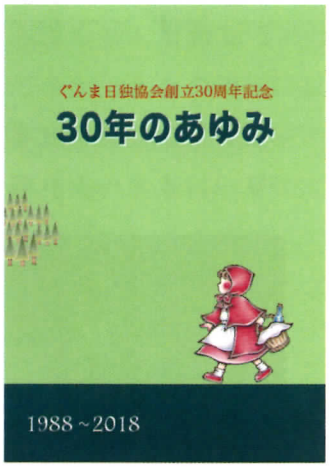
創立30周年記念事業

記念式典	2018（平成30）年11月11日11：00〜11：45 昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）第５会議室
記念コンサート	2018（平成30）年11月11日13：30〜15：15 昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）小ホール
会員交流会	2018（平成30）年11月11日15：20〜16：30 昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）２Fフリースペース

ぐんま日独協会創立30周年記念コンサート ドイツ音楽紀行

2018（平成30）年11月11日
於：昌賢学園まえばしホール
（前橋市民文化会館）小ホール

〈出演〉
小田原由美：ヴァイオリン＆ヴィオラ
小田原瑞輝：ホルン
田中悠一郎：ピアノ
渋川ナタリ：ピアノ
澤田まゆみ：ピアノ



ぐんま日独協会創立30周年記念誌
30年のあゆみ

ぐんま日独協会創立30周年記念品
オリジナルエコバッグ

ぐんま日独協会 30 年のあゆみ

年月日		事　項	関連頁
1987 (昭和 62)		**故平形義人氏、故佐藤進一氏、故中澤晁三氏、故角田勤氏等が発起人代表として準備会発足**	12
1988 (昭和 63)	4. 17	**ぐんま日独協会設立総会、記念パーティ(前橋商工会議所会館)** **平形義人氏 初代会長就任**	12
1989 (平成元)	3. 1 4. 16	会報創刊号発刊 (第４号より名称を『ハイマート』とする) 設立１周年記念祝賀会(前橋／県民会館) ぐんま日独協会から群馬大学へヴィーラント全集を寄贈	15 13 28
1990 (平成２)	4. 15	設立２周年記念大会(前橋／群馬会館) 講演(講師／中央大学教授 小塩節氏)	13
1991 (平成３)	4. 26	設立３周年記念大会(前橋／東和銀行本店 大会議室) 講演(講師／参事官 Dr. ヴィルフリート・シュルテ、 日独協会副会長 園田和朗氏)	
1992 (平成４)	5. 31	設立４周年大会(前橋／群馬会館) 講演(講師／W. ハース大使ご夫妻、参事官 Dr. ヴィルフリート・シュルテ、 藤田眞之助ご夫妻)	
1993 (平成５)	6. 27 10. 14	設立５周年記念大会(前橋／群馬会館) 講演(講師／ボン大学教授 Dr. ヨーゼフ・クライナー、 東京大学名誉教授 常木實氏) 設立５周年記念講演会(講師／ドイツ大使館ペーター・ブロマイヤー書記官)	13
1994 (平成６)	4. 17	設立６周年大会(前橋／群馬会館) 講演(講師／前駐独大使 木村敬三氏)	
1995 (平成７)	4. 23	設立７周年大会(前橋／群馬会館) 講演(講師／東京日独協会評議員 木村敬三氏)	
1996 (平成８)	4. 14	設立８周年大会(高崎／高崎労使会館) 講演 (講師／東京日独協会評議員 道正邦彦氏)	
1997 (平成９)	4. 25	第10回記念大会(高崎シティギャラリー コアホール) 講演(講師／駐日ドイツ大使 Dr. ハインリヒ・D・ディークマン)	
1998 (平成 10)	4. 16	第11年次総会(ホテルメトロポリタン高崎) 講演(講師／ドイツ－日本研究所長、ベルリン自由大学 J. 日地谷・ キルシュネライト教授)	
1999 (平成 11)	4. 15	第12年次総会(ホテルメトロポリタン高崎) ベルツ生誕150年講演(講師／日本温泉協会会長 木暮金太夫氏、 草津ベルツ協会副会長 沖津弘良氏)	14
2000 (平成 12)	4. 14	2000年ぐんま日独協会大会(高崎シティギャラリー コアホール) 講演(講師／武蔵野音楽大学教授 古池好氏、作家 朝雲久児臣氏)	
2001 (平成 13)	5. 13 ～14	ぐんま日独協会2001年記念ベルツ・草津大会(草津／ホテル中沢ヴィレッジ) 講演(講師／ドイツにおける日本年事務総長 黒川剛氏)	

2002 （平成 14）	4. 15～15	2002年度総会・観桜と禅に親しむ会（渋川／プリオパレス） 講演（講師／最乗寺管長 石附周行禅師、日独協会 花井清氏）	14
2003 （平成 15）	5. 26～6. 5	**ドイツ親善旅行（ぐんま日独協会15周年記念事業）**	16
	8. 30	Sommertreffen夏の例会（群馬県庁 昭和庁舎） 講演（講師／日独協会副会長 木村敬三氏）	
2004 （平成 16）	4. 25	2004年度総会（群馬県庁 昭和庁舎）	
	9. 4	Sommertreffen夏の例会 講演（講師／東京電力群馬支社グループマネージャー 栗田隆史氏）	
2005 （平成 17）	4. 10	2005年度総会（群馬県庁 昭和庁舎） 対談（富岡市在住ドイツ人 クラウディア・ボイクマン・蝶谷氏、 マリア・ギセラ・黒沢氏）	
	7. 12～18	**第１回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）**	18･19
2006 （平成 18）	4. 20	2006年度総会（群馬県庁 昭和庁舎） 講演（講師／上毛新聞論説委員長 小林忍氏）	
2007 （平成 19）	4. 4～27	**『展示』ぐんまの中のドイツ（東京・ドイツ大使館）**	22
	4. 24～26	**全国日独連合会総会「日本におけるドイツ」（草津町・中沢ヴィレッジ）**	23
	7. 12～16	第２回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）	20
2008 （平成 20）	4. 5	2008年度総会（群馬県庁 昭和庁舎）	
	5. 15	**平形義人名誉会長、鈴木克彬会長就任**	
	6. 6	**毎月第１土曜日にドイツサロン開設（高崎・ドイツロンネフェルト紅茶店『陶豆屋』）**	26
	8. 6	平形義人名誉会長 ドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字賞受賞	
	11. 15	ドイツ環境問題講演会（前橋／群馬会館） 講演（講師／ドイツ大使館アドリアン・ニチェ経済・環境担当一等書記官）	
2009 （平成 21）	4. 26	平成21年度総会（群馬県庁 昭和庁舎）	
	7. 15～20	第３回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）	20
2010 （平成 22）	3. 25	ザールブリュッケン独日協会17名来県し、当会と友好関係締結	
	4. 17	平成22年度総会（群馬県庁 昭和庁舎）	
2011 （平成 23）	4. 16～17	日独交流150周年記念 全国独日協会連合会27名来県	
	5. 14	平成23年度総会（群馬県庁 昭和庁舎）	
	5. 27～6. 6	**日独交流150周年記念 ドイツ親善旅行（会員10名参加）**	17
	9. 23～27	日独交流150周年記念 第４回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）	21
	12. 10	日独交流150周年記念 ブルーノ・タウト関連講演会	

2012 （平成 24）	4. 28	平成24年度総会（群馬県庁 昭和庁舎） 講演（講師／北関東循環器病院院長 南和友氏）	
	7. 14～15	日独協会連合若手の集い（前橋／赤城青年の家）	25
	11. 21	ドイツ大使館、ドイツ文化センター訪問	
2013 （平成 25）	4. 21	平成25年度総会（群馬県庁 昭和庁舎） 講演（講師／群馬県警察本部長・元駐独日本公使 嶋崎郁氏）	
	6. 2～3	第５回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）	21
2014 （平成 26）	4. 26	平成26年度総会（前橋市中央公民館）	
2015 （平成 27）	4. 29	平成27年度総会（前橋市中央公民館）	
	6. 26～28	第６回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）	21 29
	8. 25	ドイツ人少女フルートカルテット“FluTeens” 演奏会 （前橋市中央公民館 ３Fホール）	24
2016 （平成 28）	4. 29	平成28年度総会（前橋市中央公民館） 講演（講師／事務局次長 井上晃良氏）	
	7. 8	第1回高崎経済大学ドイツ人交換留学生交流会（高崎経済大学）	29
	8. 20	ベルツ博士勉強会（前橋市中央公民館） 講演（講師／群馬大学名誉教授 白倉卓夫氏）	
	11. 26～27	親睦会（吾妻郡嬬恋村／ホテルグリーンプラザ軽井沢）	25
2017 （平成 29）	4. 29	平成29年度総会（前橋市中央公民館） 講演（講師／公益財団法人 日独協会職員 鎌田タベア氏）	
	6. 30～7. 2	第７回ドイツフェスティバル inぐんま（群馬県庁 県民ホール）	21
	11. 28	ヴェアテルン駐日ドイツ大使講演会（群馬県庁 ビジターセンター） レセプション（前橋／群馬會舘食堂）	24
2018 （平成 30）	2. 17	第１回ドイツ語ニュースを聞く会（前橋市中央公民館）	27
	3. 17	第１回ドイツ映画を見る会	27
	4. 29	平成30年度総会（前橋市中央公民館） 講演（講師／慶応大学名誉教授・文学博士・横浜日独協会理事 寺澤行忠氏）	
	11. 11	**ぐんま日独協会創立30周年事業** **記念式典（昌賢学園まえばしホール 第５会議室）** **記念コンサート（昌賢学園まえばしホール 小ホール）** **創立30周年記念誌『30年のあゆみ』発行**	8

上毛新聞記事から見るあゆみ

ぐんま日独協会設立▶

1988(昭和63)年３月18日／上毛新聞掲載

■上毛新聞に「ドイツ好き集まれ」という、ぐんま日独協会設立の記事が報道されると、数日で準備室に300名近い応募があり「これほどドイツに関心のある人が多いとは」と関係者を驚かせた。

群馬県とドイツとの交流は明治時代からあり、ベルツ博士や建築家のブルーノ・タウトがその代表です。また、日本の医学界はドイツから多くを学び、ドイツ語を学ぶ学生も多かった。

それまで群馬県とドイツを結ぶ中心組織がなかったが、「市民レベルのぐんま日独協会」の設立がドイツとの交流の拠点となるようにと、多くの県民が期待を寄せた。

ドイツ好き集まれ

「ぐんま日独協会」発起人19人呼びかけ

来月17日・前橋

江戸、明治時代から本県と人的交流の深いドイツと交流を深めるため、その拠点となる「ぐんま日独協会」を設立、四月十七日午後二時から前橋商工会議所で記念パーティーを開くことになった。設立発起人は十九人で構成、主唱者の中には日独協会（丸田芳郎会長）の会員でもある医師や各界のリーダーが加わっており「ドイツが好きな方、関心のある方はぜひ参加を」と呼びかけている。

同協会の設立を呼びかけているのは医師の佐藤進一さん（前橋）平形義人さん（渋川）草津町観光協会長で草津ベルツ協会長の中沢晃三さんら十九人。顧問として県立女子大の小林喬教授、音楽家の斎藤民さんら八人も加わり、ドイツ留学経験を持つ医師らを中心に弁護士、教師、建築家などに広がっている。

設立のきっかけになったのは、明治初年に東京医学校（現東大）教授に招かれたドイツ内科医学者、E・ベルツ博士（一八四九―一九一三年）。博士の出生地・ビューティヒハイム・ビッシンゲン市と姉妹都市を結んだ群馬県草津町が、交流二十五周年を迎えていることや昨年十一月八日、ベルリンの旧日本大使館が「日本センター」として生まれかわり改めてドイツとの交流の深さが確かめられたことから、関係者の間に一気に交流団体づくりの機運が盛り上がった。

平形医師は「医学者間のドイツとの交流は長い。留学などでドイツの市民に世話になった。来日するドイツの方々におれの意味で感謝する場づくりにもなる」と語っている。

また、ロマンチック街道などの観光面、シーボルトやナウマンらの医・科学者、ブルーノ・タウトら建築者ら県内で人的交流は深く、毎年夏の草津音楽アカデミーでの音楽家交流もあって中沢会長は「県民あげての組織にしたい」としている。

県では「民間ベースを大切に行政としてもできるかぎり支援していく」と協会活動の成果に期待している。

設立パーティーは参加費三千円で二百人余の来場を予定。連絡、問い合わせは佐藤さん方（☎0272②401 9）へ。

本県にも「日独協会」

駐日大使囲み300人歓談

前橋

本県と関係の深いドイツとの交流をさらに深めていこうと、「ぐんま日独協会」の設立記念パーティーが十七日、前橋商工会議所で開かれ、招待された H・J・ハリヤー駐日大使らを囲み、約三百人が歓談した。

同協会は、渋川市の医師、平形義人さんや、草津町観光協会長で草津ベルツ協会長の中沢晃三さんら十九人が発起人となり、ドイツ留学経験をもつ医師、音楽家、建築家らに呼びかけ設立準備を進めてきた。県や研究所単位のドイツとの友好協会設立は全国で二十九番目となる。

記念パーティーでは、ハリヤー大使がドイツ国歌が演奏されるなか、家族とともに入場。平形さんや県立女子大の小林喬教授が「本県は草津や伊香保温泉の効能を指導したベルツ博士や、建築家ブルーノ・タウトなど明治時代からドイツとの人的交流が深い。協会設立を機に医学、音楽などあらゆる分野で交流を深めていきたい」とあいさつ。これを受け、ハリヤー大使は「公的交流も大切だが、もっと市民一人ひとりの友好関係をはぐくんでいこう」と呼びかけた。

この後、「さくらさくら」などの琴合奏、バイオリン合奏、群馬交響楽団アンサンブルなどの祝典演奏が行われ、集まった県内在住のドイツ人や協会員ら約三百人がなごやかに懇談した。

前橋で行われた日独協会の設立記念パーティー

◀設立記念パーティ

1988(昭和63)年４月18日／上毛新聞掲載

■1988年４月17日にぐんま日独協会設立記念パーティが、H. J. ハリヤー駐日ドイツ大使、清水一郎群馬県知事の出席のもと、前橋商工会議所で盛大に開催された。

ハリヤー大使は「公的交流も大切であるが、これからは民間レベルの交流も大事です」と挨拶され、清水知事は群馬県とドイツのかかわりなどについて語られ、「ぐんま日独協会の今後の活躍に期待している」との祝辞をいただいた。また、設立準備会 平形義人代表が「全国37番目の日独協会で、皆さんに親しまれるぐんま日独協会にしましょう」と挨拶した。

式典終了後には、琴の演奏、群馬交響楽団の演奏など、約300名の参加者が設立を祝い歓談した。

７月24日には第２回総会を開き、役員人事が検討され、ぐんま日独協会の組織が確立した。

役員人事は次の通り。

会長／平形義人（渋川市）、副会長／中澤晃三（草津町）、副会長／木暮金太夫（伊香保町）、副会長／小林喬（県立女子大）、副会長／角田勤（沼田市）、副会長／中村紘一（前橋市）、事務局長／佐藤進一（前橋市）、理事11名選出（氏名省略）。

◀設立１周年記念式典

1989（平成元）年４月18日／上毛新聞掲載

■1989年４月16日、設立１周年記念式典が群馬会館で、会員150人とロルフ・ユンク駐日西ドイツ公使とベルリン日独センター総裁甲斐文比古氏が出席し、和やかに開かれた。

甲斐総裁は、東西ドイツの現状について講演された。

あいさつするユンク公使

留学生ら150人が１周年祝い交流

前橋でぐんま日独協会

ぐんま日独協会（平方義人会長）の設立一周年を記念した祝賀会が十六日、前橋・県民会館で開かれ、会員やドイツからの留学生ら百五十人余りが参加、交流のひとときを過ごした。

同協会は、ドイツの留学体験者をはじめ、ドイツに興味のある人々が集い、民間レベルの日独交流を進めている。会員は医師や会社員、学生、主婦ら三百人余り。

同日の祝賀会には、西ドイツ駐日公使のロルフ・E・ユンク氏一家やベルリン日独センター総裁の甲斐文比古氏ら多数の来賓も出席。平方会長の開会の言葉に続き、ユンク氏が「この地は、ベルツ博士、ブルーノ・タウトら、日独友好を築く土壌が歴史的にもはぐくまれてきたところ。今後も交流と理解を共通の課題にしていきたい」とあいさつした。

セレモニーに続いて、参加者全員で声を合わせてドイツ民謡「歌声響く」を大合唱。高崎第九合唱団の有志十七人による日本の童謡が流れるなか、参加者は互いにうちとけあい、華やいだ歓談の輪が広がっていた。

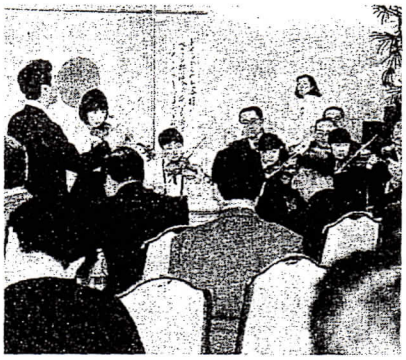
発足２周年を記念、前橋で大会

ぐんま日独協会

ぐんま日独協会（平形義人会長、二百人）の発足二周年記念大会が十五日、前橋・群馬会館でG・ハーシュ・ベルリン独日協会長とJ・ショット・ドイツ桜の女王を招いて開かれた。

同協会は、ドイツの合唱団の招へいやこの三月には本場のロマンチック街道に桜を植樹するなど活発な活動を続けている。

この日は、子供たちの奏でるバイオリンの調べに合わせて会員が合唱、友好の輪を広げた。さらに特別企画として小塩節中央大教授が講演した。



なごやかに開かれた発足２周年記念大会

設立２周年記念式典▶

1990（平成２）年４月21日／上毛新聞掲載

■1990年４月15日、設立２周年記念大会が、ベルリン独日協会ハーシュ会長、小塩節氏（中央大学教授）の出席のもと、群馬会館で開催された。

ハーシュ会長は現在のベルリン市民の生活や復興状態を興味深く講演された。また、小塩氏はベルリンの壁はどうして崩壊したか、東西ドイツの生活と問題点を、ドイツ語を交え講演された。

1990年10月３日東西ドイツが再統一。東ドイツが西ドイツに編入され、東ドイツは消滅した。

きずな深め５周年

前橋　日独協会が記念大会

ぐんま日独協会（平形義人会長）の設立五周年記念大会が二十七日、関係者約百人が出席して前橋・群馬会館で開かれ、ボン大学教授でドイツ日本研究所長のヨーゼフ・クライナー氏らの講演が行われた。

同協会は日独友好を目的に、昭和六十三年設立。現在、会員は個人二百五十人、法人五十社を数える。あいさつに立った平形会長は「古くはベルツ、ブルーノ・タウトらが県民と交流した。県民がドイツに親しみを感じつつある今日、日独協会にもっと関心を持ってもらい、より団結して学んでいこう」と呼び掛けた。

また、平形会長をはじめ副会長や理事ら十七人に、ドイツ連邦共和国のヴィルヘルム・ハース駐日大使からの表彰状が伝達された。

クライナー氏は「ドイツにおける日本のイメージ」と題して、モーツァルトの日本観や浮世絵、版画がヨーロッパ美術に影響を与えたことなどを紹介。さらに外務省のEC諸国における世論調査結果を基に「ドイツ人は日本人を勤勉で礼儀正しいと思っている」などと述べた。

このあと、帝京大教授の常木実氏が「日本とドイツは学問を通じて結び付きができた。ドイツの学術文化の中で、日本に最も影響を与えたのは医学だった」などと語った。

講演などが行われたぐんま日独協会の５周年大会

◀設立５周年記念総会

1993（平成５）年６月28日／上毛新聞掲載

■1993年７月27日、設立５周年記念大会が群馬会館で大勢の会員の参加のもと盛大に開催された。

小寺群馬県知事は祝辞のなかで、ドイツと群馬県のかかわりについて、ドイツ人医師ベルツ博士や、建築家ブルーノタウトの功績などについて語られ、今後のぐんま日独協会の活動に期待するとともに、協力を惜しまないと述べられた。

式典では、ドイツ連邦共和国W・ハース駐日大使より、平形義人会長他16名の役員に表彰状が授与された。

式典後の記念公開講演では、ボン大学のヨセフ・クライナー教授（ドイツ日本文化研究所）は「ドイツにおける日本のイメージ」と題して日独交流の歴史について、常木實帝京大学教授は「初めに科学ありき 独・日の出会い」を講演された。

ベルツ生誕150年講演▶

1999(平成11)年４月16日
上毛新聞掲載

■1999年４月15日、ホテルメトロポリタン高崎・丹頂の間で年次総会と「E. v. ベルツ博士の生誕150年記念講演」が開催された。

平形会長は「ドイツに於ける日本年」で名誉総裁に皇太子殿下とヘルツォーク大統領が就任したことを、「21世紀における日独の新たな出会いである」と語った。

講演では、木暮金太夫氏（日本温泉協会会長）が「ベルツ博士と伊香保温泉」、沖津弘良氏（草津ベルツ協会副会長）が「ベルツ博士と草津」を演題に講演された。

温泉紹介の功績たたえる

高崎　ベルツ生誕150年で講演

エルウィン・ベルツ（一八四九―一九一三）の生誕百五十年を記念し、ぐんま日独協会（平形義人会長）主催の講演会が十五日、高崎市内のホテルで開かれ、関係者やドイツ大使館員ら約七十人が出席した。

ベルツは、ドイツの内科医学者。一八七六年、東京医学校（現東京大学医学部）の教授として、日本政府の招きにより来日。一九〇五年に帰国するまでの約三十年間、わが国の内科医学に貢献した。日本の温泉にも関心を持ち、伊香保温泉を例として温泉開発のモデルプランを政府に進言したほか、草津温泉の西欧風温泉地化も計画した。

講演は日本温泉協会の木暮金太夫会長と、草津ベルツ協会の沖津弘良副会長が、それぞれベルツと伊香保、草津温泉とのかかわりについて講演した。

木暮さんは「ベルツと妻の花は明治十四、十五年のふた夏、伊香保の別荘に滞在。伊香保は夫妻にとって新婚旅行の地であり、ベルツがわが国で最初に系統的指導をした温泉地だ」と紹介。

沖津さんは「草津温泉は、外国にない泉質の温泉。ベルツは同温泉の優れた素材に驚き、その医学的研究を国内外の学会に発表した」と、ベルツの功績をたたえた。

弘良先生

「伊香保温泉はベルツ夫妻の新婚旅行の地」など、研究・調査結果を披露する木暮さん

草の根交流網羅したい

駐日大使館のアメルンク氏

ぐんま日独協会総会

ぐんま日独協会（平形義人会長）は14、15日の両日、渋川市のプリオパレスなどを主会場に2002年度総会、公開講演会を含む「観桜と禅に親しむ会」を開いた。この催しには、駐日ドイツ大使館一等参事官・文化部長のゲロルト・アメルンク氏とマリオン夫人が来賓として出席。会員らとともに、野だてや花見で春の一日を楽しんだ。

講演会や花見で春満喫

公開講演会でアメルンク氏は、「著しい社会変化とグローバル化時代にあって、両国が親密な関係を築くには大きな努力が要求される。そうした中で、協会が果たせる役割は大きい」とあいさつ。また、歓迎茶会の席で「東京に暗を置く大使館公務だが、全国50の日独協会設立に至る彼らの功績を誇った。

また同会席上で、草津・40ある独日協会のネットワークを通じて、さらなる草の根交流を網羅していきたい」と、日独交流への意欲を語った。

公開講演会では、大雄山最乗寺管主の石附周行禅師が「禅とドイツ」、日独協会の花井清常務理事が「日独協会を背負った人々」と題して講話した。

石附禅師は、自己を見極める仏道を説明。「君子であれ農夫であれ、自分の家庭に平和を見いだせる者は最も幸せである」というゲーテの言葉を引用し、「悟りの世界は心静けさを見つめ直すところにある」とした。

花井氏は、1871（明治4）年、第1回ドイツ留学生としてベルリンの地を踏んだ大学東校（東京大学の前身）の長井長義をはじめとする有志を紹介。1911（明治44）年10月の日独協会設立に至る経過を説明。

親密な関係構築に努力

日独協会、そしてドイツに西の河原に建立されたベルの根交流を網羅していきたい」と、日独交流への意欲を語った。

公開講演会では、大雄山最乗寺管主の石附周行禅師が「禅とドイツ」、日独協会の花井清常務理事が「日独協会を背負った人々」と題して講話した。

石附禅師は、自己を見極める仏道を説明。「君子であれ農夫であれ、自分の家庭に平和を見いだせる者は最も幸せである」というゲーテの言葉を引用し、「悟りの世界は心静けさを見つめ直すところにある」とした。

花井氏は、1871（明治4）年、第1回ドイツ留学生としてベルリンの地を踏んだ大学東校（東京大学の前身）の長井長義をはじめとする有志を紹介。1911（明治44）年10月の日独協会設立に至る経過を説明。

この拓本は、1926（大正15）年に再興された協会理事長で、同碑を撰文した入沢達吉氏の孫の依吉氏が所有していた。

アメルンク夫妻は同日夕、伊香保町での歓迎行事に出席。15日は、県庁に高山昇副知事を表敬訪問した。

ぐんま日独協会

1988（昭和63）年4月設立。以来、毎年ドイツ人を招いた講演会や文化を学ぶ場を設け、ドイツの魅力を広く県民にアピールしている。昨年10月には、ベルツ博士生誕150年記念事業やブルーノ・タウト生誕120年記念事業など、日独交流の促進を図ってきた同協会の功績が評価され、県国際交流賞を受賞している。

野だての点前を見学する駐日ドイツ大使館一等参事官・文化部長のゲロルト・アメルンク氏とマリオン夫人（中央は、案内役の平形会長）

▲2002年度総会・観桜と禅に親しむ会

2002(平成14)年４月20日／上毛新聞掲載

■2002年４月14～15日、渋川市のプレオパレスに駐日ドイツ大使館ゲロルド・アメルンク一等参事官夫妻を迎えて総会が開かれ、公開講演会には各界から多彩な顔ぶれの方々が講演された。

アメルンク文化部長は「全国の50ある日独協会と40の独日協会と協力し、草の根交流を積極的に推し進めたい」と講演され、花井清日独協会常務理事は「日独協会を背負った人々」と題して日独協会の設立に尽力された人物像を講演された。大雄山最乗寺管主の石附周行禅師は「禅とドイツ」と題してゲーテの言葉を引用し解りやすく「禅と悟りの世界」を講演された。

「新聞記事から見るあゆみ」12～14頁に関しては、上毛新聞社のご好意で掲載させていただきました。

創立期の思い出

ぐんま日独協会監事　杉本隆雄

1988(昭和63)年３月12日付上毛新聞に「ドイツ好き集まれ、ぐんま日独協会、発起人19人呼びかけ、 来月17日前橋」という見出しの記事が掲載された。私自身商社マンとしてドイツとの仕事も多く、昭和43年から６年間家族と共にドイツ暮らしを体験したことでもあるので、妻と共に喜び勇んで参加することにした。

設立総会は1988(昭和63)年４月17日(日)、前橋商工会議所にて開催された。その詳細は本誌に詳述されているのでここでは省くことにするが、書記を命じられた私の手元に今残っている古い記録として第１回理事会議事録の一部がある。開催日1988(昭和63)年10月23日(日)於高崎中央公民館、出席者平形義人会長、佐藤進一事務局長以下12名、テーマとして「当協会の文化活動として何を行うか、例えば、日独の子育て比較につきシンポジウムを高崎で開きたいがいかが」との提案が出された。この日には決定できず、後日理事会ベースで協議ということになったが、一部の理事からこのテーマはすでに高崎市の社会教育研究会でヨハンナ・マツダ氏の講演も行われているので二番煎じであるとの意見で、そのままになってしまった。

もう一つ、第２回理事会議事録がある。開催日平成元年(1989年)１月22日(日)、於県民会館内タジマヤレストラン、出席者平形義人会長、佐藤進一局長以下20名、議題の主たる内容は、平形会長から基本方針として「会内部の組織化を図る、会誌の発行を計画する、会員の把握を確実に行う、全国日独協会連合会に加盟したので他地方の協会との連繋を図る、在ドイツの独日協会との交流を行う」とのご発言があった。中澤晁三様からは「Romantische Strasseとの提携によりドイツより近日中28名の来日予定あり、また今年はBietichheim-Bissingenの1200年祭が開催されるのでRomantische Strasseを訪問する計画に参加して欲しい」とのご要請があった。その他、佐藤局長より会費につき「今年から総会費3,000円、年会費2,000円合計5,000円としたい、いかが」とのご提案あり、全員賛成した。

草創期のころの若干の記録をご披露した。

ぐんま日独協会創立 30 周年によせて

ぐんま日独協会副会長　田口久美子

「ドイツ好き集まれ」の募集から早 30 年が経ってしまいました。桜の満開の下で設立パーティが開催されました。渋川アリサさんと二人で、300 人もの人が集まる中、ドイツ大使の祝辞を通訳したのも懐かしい思い出です。　私は20代でドイツのバーデン・ヴルテンベルク州カールスルーエ工科大学(バーデン公のルートヴィッヒ１世によって創立されたドイツ最古の工業大学) 建築科に入学しました。緑豊かな木々に囲まれた敷地の中に各学科の建物が点在し、大学の隣には城もあり、菩提樹の花の香りが今でも思い出されます。お城の中にはシュロス・カフェがあり、ケーキとコーヒーを味わいながら試験勉強をしたり、製図のデザインを考えたりとゆったりとした時間を過ごしました。バーデン・ヴルテンベルク州はドイツの中でも、風光明媚なところで、有名なシュバルツバルド（黒の森）はドイツの中でも最も好まれる保養地と言われています。カールスルーエは、その大きな黒の森の北側に位置します。また、工業都市のイメージもあるのですが、ドイツの最高裁判所、憲法裁判所があります。かつてのバロック貴族の都市で、その中心に城があり、それを扇型に 32 の道路に広げています。私がいつもコーヒーを飲んだシュロス・カフェも入るお城は 1715 年に建てられて今でも、皆に愛されています。カールスルーエの都市計画も有名で、私が滞在していた時もまだ、都市計画実行中でした。後一つ、アート・アンド・メディアテクノロジーセンターは世界的な名声を得ているそうです。緑豊かなキャンパスを通り抜けて学生食堂では、各国の学生と色々議論をしました。まだ、統一されていなかった東西ドイツの話題や、出身の国の話、ドイツへの憧れ等々、ゆっくりとゆったりした時間を過ごしました。ちなみに、建築科を卒業した初めての日本人だと卒業式で褒められたのも嬉しい思い出です。これからも、会員の皆様とたくさんのドイツの話で盛り上がりましょう！

ぐんま日独創立の想い出

ぐんま日独協会副会長　對馬良一

1973（昭和48）年４月、北海道夕張市の三菱鉱業（株）（現、三菱マテリアル（株））から、転勤で関東にくるまではドイツ人との交流はありませんでした。1958年から61年までの３年間、当時の西ドイツの炭鉱にドイツの優秀な炭鉱技術を習得する名目で会社から選抜派遣でしたが、帰国後は取得した炭鉱技術を十分発揮することなく、石炭からセメント関連の会社（群馬県）への転勤でした。

そのころ知人（花井清氏）から、東京に日独協会があることを知り入会しました。在日ドイツ大使館の行事や東京日独協会の催物に積極的に参加しドイツとの交流を楽しみました。

1988年に、上毛新聞に「ドイツ好き集まれ」の新聞記事を読み、ぐんま日独協会に入会した。あれから30年、当時の会員も少なくなりました。

平形義人初代会長の要請で、北海道生まれの私が東毛地区の担当役員に指名されました。清水知事、前川群大学長、木暮金太夫氏、中澤晁三氏、佐藤進一氏、角田勤氏、須郷登世治氏、塚越平人氏など初めて会う人ばかり。名前を覚えるのに苦労しました。また、会議等のため館林から前橋、渋川に行くのに当時は２時間近くかかり道路もわからず行事に遅れて参加した苦い思い出もあります。発足当時はパソコンもそれほど普及してなく浅学菲才の私には、Heimatの原稿を書くのも苦痛でした。

私の手元に1985年頃のBoss駐日ドイツ大使から現在のWerthern大使までの名刺があります。また、日独協会長名刺が４枚（上田常光氏、丸田芳郎氏、樋口廣太郎氏、古森重隆氏）。東京日独協会に入会して35年（？）、ぐんま日独協会30年と年数だけはあります。理事、副会長兼事務局長を歴任した思い出多い日独交流でした。

38歳の時、関東に来て現在83歳、45年間、23歳の時ドイツで取得した自動車免許でいつまで運転できるか、また高齢者の免許証返納時期と合わせ、ぐんま日独協会の引退も考えねばならない時期にきています。

他の協会では、若い会員の入会が少ないと嘆いていますが、ぐんま日独協会は増えています。

私は、ぐんま日独協会は楽しい有意義な会として、さらに発展していくことと思います。優秀な後任役員の方々に感謝している毎日です。

創立30周年に寄せて

元太田市医師会会長　鹿山徳男

ぐんま日独協会創立30周年とのこと、心よりお祝い申し上げます。それと共に爽やかな風を感じ喜びが湧きあがりました事を申し添えます。

多分創立して数年経った時大学の先輩である渋川市の平形義人先生と前橋市の佐藤進一先生に群馬「ゐのはな」同窓会でお会いしました。その席で両先生から日独協会のお話しを伺いました。その折協会に入会する様にお勧めを頂きました（因みに「ゐのはな」同窓会は千葉医科大学、現在の千葉大学医学部の集まりです）。そのご縁で入会させて頂きました。私の記憶では佐藤先生が世話人の様な形で会の運営をされていた様に見えていました。佐藤先生から東毛方面の法人会員を勧誘する様にご指示を受け「ずばる」「三洋」「味の素」等数社に入会をお願いに行った記憶があります。私も開業医で協会の催し事と日時がうまく合わずずーっとご無沙汰をしていて今日まで参りました。

2009年６月27・28日の北軽井沢での「ドイツフェスタ」に家族全員で参加し楽しいひとときを過ごしたのが今も鮮明な印象として残っています。これからも協会が会員諸子にとってよりよい存在であることを心より祈っております。

ぐんま日独協会会報『 Heimat ハイマート 』

『ぐんま日独会報』として1989年に創刊されたぐんま日独協会の会報は、1991年11月６日発行の設立３周年記念大会号から『**Heimat ハイマート**』と名前が変わった。

「Heimat ハイマート」の日本語訳は「故郷」。「会報がその名の如く親しみ易く且つ暖かく交流の場となり年配者には懐かしい思い出の場とし、若者には大志を抱いて郷門を出づる勇気を披瀝する場として頂きたい」という思いをこめて命名したものである。

なお、今後発行される『**Heimat ハイマート**』、これまでのバックナンバーは、ぐんま日独協会ホームページ上で閲覧することができる。

ぐんま日独会報

設立一周年を迎えて

国際交流とその心構え

日独両ロマンチック街道の姉妹締結の調印式を終えて

合唱で日独親善交流を

ドイツの感動

ぐんま日独会報（創刊号）

1989（平成元）年３月１日発行

1991年11月6日 発行

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

4 設立3周年記念大会号

発行者 平形義人
発行所 ぐんま日独協会
〒371 前橋市三俣町3-11-12
TEL0272-51-7212 FAX0272-52-4082

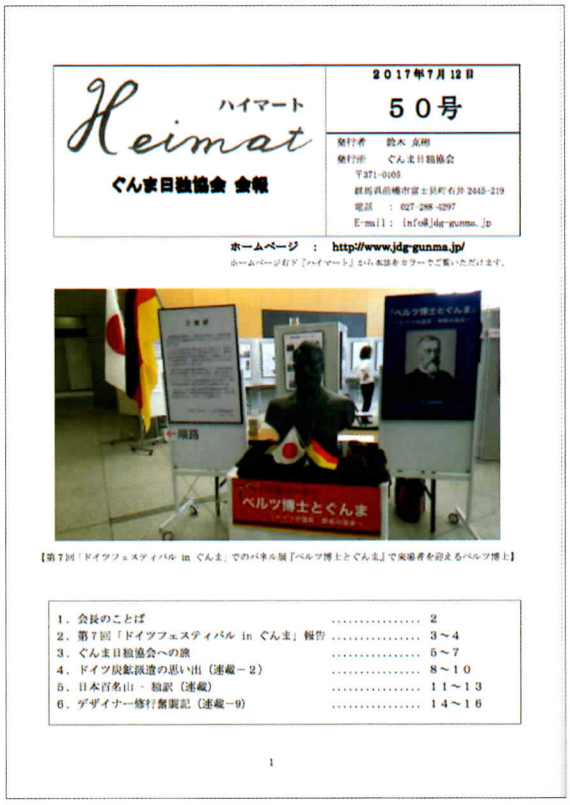
写真
●ぐんま日独協会３周年記念大会
●平成３年４月26日
●東和銀行本店２階大会議室にて

○ハイマート大会記念号の主な内容
●三周年記念大会詳報／あいさつ、祝辞、講演、会務会計報告その他
●ハース大使から表彰された人と団体
●会員の動きあれこれと投稿
●事務局だより／楽しいクリスマスの集い（写PM2：00から群馬会館）、会費納入について
投稿のお願い―ご意見、旅行記、文芸など。

題字：平形義人会長

「Heimat ハイマート」に名称を変更
設立３周年記念大会号

1991（平成３）年11月６日発行


2017年7月12日

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会 会報

50号

発行者 鈴木 京樹
発行所 ぐんま日独協会
〒371-0105
群馬県前橋市富士見町石井2445-219
電話 ：027-288-4297
E-mail：info@jdg-gunma.jp

ホームページ ： http://www.jdg-gunma.jp/
ホームページ右下「ハイマート」から本誌をカラーでご覧いただけます。

【第7回「ドイツフェスティバル in ぐんま」でのパネル展『ベルツ博士とぐんま』で来場者を迎えるベルツ博士】

1．会長のことば …… 2
2．第7回「ドイツフェスティバル in ぐんま」報告 …… 3～4
3．ぐんま日独協会への旅 …… 5～7
4．ドイツ炭鉱派遣の思い出（連載－2） …… 8～10
5．日本百名山・独訳（連載） …… 11～13
6．デザイナー修行奮闘記（連載－9） …… 14～16

1

Heimat ハイマート 50 号

2017（平成29）年７月12日発行

ドイツ親善旅行

創立15周年記念ぐんま日独協会ドイツ親善旅行

2003(平成15)年5月26日～6月

独日協会総会出席（於：ブラウンシュヴァイ
訪問団員数：協会員

〔日 程〕

5/26	成田-LH711-フランクフルト着、群馬県昭和村出身、清水恭代さん経営の店“SOBA-SOBA”を訪問、激励と夕食	フランクフルト泊
5/27	観光船でのライン下りとケルン観光	フランクフルト泊
5/28	フランクフルトとハイデルベルク観光。夜アスパラ料理	フランクフルト泊
5/29	メルヘン街道をブレーメン経由でブラウンシュヴァイクへ 全国独日協会前夜祭参加、平形会長の仕舞と鈴木夫妻のタンツェン披露	ブラウンシュヴァイク泊
5/30	全国独日協会総会行事に参加	ブラウンシュヴァイク泊
5/31	終日ベルリン観光(ICE往復利用)	ブラウンシュヴァイク泊
6/ 1	ミュンヘンへ移動(ICE利用)	ミュンヘン泊
6/ 2	ノイシュヴァンシュタイン城、ヴィース教会見学(バス利用)	ミュンヘン泊
6/ 3	ミュンヘン観光とバイエルン音楽・舞踊の見学	ミュンヘン泊
6/ 4	ミュンヘン発	
6/ 5	成田着	

独日協会総会後の集合写真

■ 設立15周年を記念して北ドイツの古都ブ
ウンシュヴァイク市で開催の独日協会総会に
席するため、ドイツを訪問。

訪問団は15名。宿泊は中部のフランクフル
市、北部のブラウンシュヴァイク市、南部のミ
ンヘン市の３市で、各市とも同じホテルに３
続宿泊した。現地での交流・交歓を多く行う
ともに、自由時間を増やすなどオリジナルな
画を盛り込んだ。前夜祭では平形会長が宝生
仕舞、鈴木事務局長夫妻がバイエルンタンツ
呼ばれる南ドイツを中心とした力強いフォー
ダンスを披露。

総会には高島有終駐独大使をはじめ、ドイ
でご活躍の日本女性（国際結婚された）も多
参加していた。

第二次大戦で破壊され再建されたブラウンシュヴァイク宮殿

ブラウンシュヴァイクの象徴であるライオン像

日独交流150周年記念ドイツ親善旅行

2011(平成23)年5月27日～6月6日

エアフルト訪問、ドイツ地方鉄道株主総会出席
訪問団員数：協会員 10 名

〔日 程〕

5/27	成田-LH711-フランクフルト-LH186-ベルリン、オペラ鑑賞	ベルリン泊
5/28	ベルリン市内観光、夕刻 タウト設計の集合住宅見学	ベルリン泊
5/29	バスでポツダムへ、サンスーシー宮殿等2ケ所を見学	ベルリン泊
5/30	ベルリン-列車-エアフルト、自家用小型飛行機での遊覧飛行	エアフルト泊
5/31	エアフルトとワイマール市内観光・捕虜収容所視察	エアフルト泊
6/ 1	ベルリン-列車-ミュンヘン、夜 ホフブロイハウス	ミュンヘン泊
6/ 2	ミュンヘン市内見学美術館等、夜独日協会前夜祭参加	ミュンヘン泊
6/ 3	ミュンヘン-列車-ウルム、午後 ウルム市内見学	ウルム泊
6/ 4	ウルム-列車-バルトハウゼン「博物館蒸気機関車」に乗車	ウルム泊
6/ 5	ウルム-列車-ミュンヘン、ミュンヘン空港-LH714-成田	
6/ 6	成田着	

ベルリン名物カリーヴルスト

ビール醸造会社のレストランにて

これから乗り込む自家用小型飛行機

■ ベルリンとエアフルトの独日協会を訪問。ベルリンでは名物「カリーヴルスト」を食す。エアフルトではエアフルト独日協会ヴェート会長の自家用小型飛行機で空中散歩を楽しむ。その後白倉会員がその昔暮らしていたビベラッハを訪問し「博物館蒸気機関車」エクスレ鉄道の旅を満喫。踏切では車掌が下車して車・通行人の有無を確認して通過。ビール醸造会社の工場見学をして食事とビールを満喫。

博物館蒸気機関車

踏切直前で機関車から飛び降り、
車や通行人の有無を確認する車掌

ドイツフェスティバル in ぐんま

▶上毛新聞掲載　2005（平成17）年7月12日

ドイツの環境保護・観光に触れよう

車やパネル展示、物産・食品販売も

きょうから県庁でフェスティバル

大型文化事業「日本におけるドイツ年」（四月―来年三月）の県内関連行事として、「ドイツフェスティバルinぐんま」（ぐんま日独協会主催）が十二日から十八日まで、県庁で開かれる。環境と観光をテーマにしたパネル展、ポルシェやメルセデス・ベンツ、BMWといったドイツ車の展示などを行う。十二日の開会式には、ヘンリク・シュミーゲロー駐日大使が出席する。

パネル展は「環境先進国」ドイツのごみリサイクルなどの取り組みや、古城やロマンチック街道といった観光地を紹介。ドイツ車は十六日から十八日まで、県内ディーラーの協力で三十台を県庁前に展示する。

本県関係では、建築家のブルーノ・タウトや医師のエルウィン・ホン・ベルツら、ゆかりの深いドイツ人の足跡を資料展示。またドイツの都市と姉妹提携を結んでいる沼田市（フュッセン市）と草津町（ビーティッヒハイム・ビッシングン市）の交流を紹介する。

フォークダンス実演やドイツの菓子、靴、おもちゃ、ソーセージなどの販売も行われる。

「日本におけるドイツ年」は、一九九九年から二〇〇〇年にかけてドイツで開かれた「日本年」の成功を踏まえドイツが開催。全国でコンサートや美術展などの関連行事が予定されている。

ドイツの民族舞踊を披露した前橋市フォークダンス協会の人たち

子どもたちに人気のテディベア

県民ホールは

環境、観光がメーンテー

▶最新の車がずらりと並んだドイツ車フェア

終盤の3日間は、最新のドイツ車を展示した「ドイツ車フェア」を開催したほか、前橋市フォークダンス協会の有志が「ブラック・フォレスト・マズルカ」などドイツの代表的な民族舞踊を実演。小学生から大学生で構成する剛太郎ジュニアオーケストラがモーツァルトのドイツ舞曲などを演奏し、多くの来場者を楽しませた。

11

鉄道模型をご覧になるデア駐日ドイツ大使
（第３回ドイツフェスティバル）

出展販売
（第４回ドイツフェスティバル）

ぐんま日独協会販売ブース
（第４回ドイツフェスティバル）

ドイツ音楽会
（第５回ドイツフェスティバル）

弦楽器中心の演奏で来場者を魅了した朝太郎ジュニアオーケストラ

ドイツ一色

ドイツフェスティバルinぐんま

環境問題をテーマにした展示に見入る駐日大使ら

ドイツの観光地などを紹介したパネル展示

本年度は日本におけるドイツ年。これを記念し、環境と観光をテーマにした「ドイツフェスティバルinぐんま」(ぐんま日独協会主催)が7月12―18日までの7日間、県庁で行われ、大勢の県民らでにぎわった。

開会セレモニーにはヘンリク・シュミーゲロー駐日大使や小寺弘之知事らが出席。前橋市立南橘中学校吹奏楽部の演奏でテープカットし、県民ホールで始まったばかりの展示を見て回った。

会場には環境先進国として知られるドイツの「地球温暖化防止」「ごみの減量化」などの取り組みを紹介するコーナー、ドイツの観光地のパネル展示、クッキーやパン、ソーセージなどの名産品の販売、ぬいぐるみのテディベアの展示も行われた。

本県とゆかりのある人物を紹介したコーナーでは、温泉を世界に紹介したベルツ博士、建築工芸家のブルーノ・タウトに関する資料も公開され、県民ホールはドイツ色でいっぱい。

10

▲第１回ドイツフェスティバル　グラフぐんま平成７年８月号掲載

◀ぐんま広報掲載　２００５(平成17)年７月３日号

ドイツフェスティバル inぐんま

ぐんま日独協会 事務局長
鈴木 克彬さん

ドイツのこだわりを伝えたい

今年は、ドイツ年。合理性と、ものづくりへのこだわりを大切にするドイツの文化に触れてみませんか。日本初となるドイツ環境省制作ポスター25枚の展示のほか、最後の3日間は最新のドイツ車約30台が、県庁県民広場に集まります。また、最高級の紅茶の試飲やハム、ソーセージの即売など、ご家族で楽しめるイベントがめじろ押し。

わたし自身、ドイツに何度も足を運び、その素晴らしさを体験してきました。ぜひ皆さんも、ドイツ一色に染まった会場で、その魅力を実感してください。

パネル展
（第７回ドイツフェスティバル）

ドイツのフォークダンス
（第６回ドイツフェスティバル）

ドイツ車フェア
（第６回ドイツフェスティバル）

テディベア展示
（第７回ドイツフェスティバル）

「ドイツフェスティバル in ぐんま」のチラシ

1. 第１回ドイツフェスティバル inぐんま
   2005（平成17）年７月12日～18日
2. 第２回ドイツフェスティバル inぐんま
   2007（平成19）年７月12日～16日
3. 第３回ドイツフェスティバル inぐんま
   2009（平成21）年７月15日～20日
4. 第４回ドイツフェスティバル inぐんま
   2011（平成23）年５月27日～６月６日
5. 第５回ドイツフェスティバル inぐんま
   2013（平成25）年６月２日～３日
6. 第６回ドイツフェスティバル inぐんま
   2015（平成27）年６月26日～28日
7. 第７回ドイツフェスティバル inぐんま
   2017（平成29）年６月30日～７月２日

1

2

3

4

第4回（2011年）
日独交流150周年 Jahre Freundschaft Deutschland-Japan
ドイツフェスティバルinぐんま
～ドイツファンになろう!!～
日 時：平成23年9月23日（祝・金）～27日（火）5日間 10:00～17:00
場 所：群馬県庁1階県民ホール（全面）
ドイツ人画家による 日本風景画展 150年前の江戸日本橋
ドイツと日本との友好交流の原点であるオイレンブルク伯率いるプロイセン東アジア遠征隊が
1861年通商友好条約を締結してから150年になります。
これを記念し、メンバーとして来日したドイツ人画家による日本風景画30点を、
歴史をひもときながらご紹介します。
2011年9月23日（祝・金）～27日（火） 群馬県庁1階県民ホール（入場無料）
9月23日（祝・金） 13:00～
オープニングセレモニー
群馬県庁 1階県民ホール
パネル展示
ドイツ人画家による150年前の日本風景画展、観光展、環境展、ベルツ展、タウト展、図南少年サッカークラブ展、SL（エクスレ鉄道）紹介
出店販売－1
メルクリン鉄道模型（実演）
健康靴（足型測定）
マイスター作アクセサリー
木製おもちゃ
ギナーンウォッチ フランクフルト
ドイツの岩塩（アルペンザルツ）
出店販売－2
ロンネフェルト紅茶
ドイツパン（輸入品）
ソーセージ・・A.ドイツ製（輸入品） B.日本製
ワイン、ビール各種（ドイツ輸入品）
ドイツグミ ハリボ
JTBドイツ旅行案内
イベント／9月23日（祝・金）～25日（日） 群馬県庁1階県民ホール
みんなで奏でよう♪ドイツ音楽コーナー 参加者募集（詳細別紙）
ぐんま日独協会会員によるコンサート 23日（祝・金） 15:00～
ドイツの響き――群馬ホルンクラブ 24日（土）・25日（日） 11:00～
ドイツのフォークダンス 前橋市フォークダンス協会
9月24日（土）・25日（日） 10:00～17:00 群馬県庁前県民広場
ドイツ車フェア（車種等、詳細裏面参照）
裏面もご確認ください

5

第5回（2013年）
ドイツフェスティバルinぐんま
～日独交流のルーツを探る～
日 時：平成25年5月31日（金）～6月2日（日）3日間／10:00～17:00
場 所：群馬県庁 1階県民ホール ／ 入場無料
日本を変えた岩倉使節団パネル展 <ぐんま日独協会オリジナル>
1872年1月23日 サンフランシスコにて
（左から木戸孝允、山口尚芳、岩倉具視、伊藤博文、大久保利通）
その他のパネル展示
◆日独ロマンチック街道展
◆ドイツ観光展
◆タウト展
◆ベルツ展
◆図南少年サッカーチーム訪独展
◆エクスレ鉄道展
欧米、東南アジア各国を視察した使節団は、
日本発展の師をドイツに求めた。そのルーツをさぐる…
6月1日（土）11:00～
イベントセレモニー
ドイツ輸入品の紹介・販売
■ドイツ直輸入食品
・パン・ソーセージ各種
・ワイン・ビール各種
・ロンネフェルト紅茶
・ハリボグミ
・岩塩（アルペンザルツ）
群馬県産ドイツ食品販売
■食品
・シュトーレン
・ドイツパン（6月1日のみ）
・ソーセージ
■ドイツ輸入製品
・メルクリンHO鉄道模型（実演展示）
・木製玩具
・マイスター作アクセサリー
・ギナーンウォッチ フランクフルト
・整形外科靴（足型測定）
・ドイツの太陽光パネル
・ドイツの雑貨
■ドイツ車フェア
■JTBドイツ旅行案内
6月1日（土）・2日（日）のみ
♪ドイツ音楽コーナー♪
■ぐんま日独協会員によるコンサート
■ドイツの響き－ヘルマン・ハープ －コール詩音
■一般参加者によるコンサート
■ドイツのフォークダンス 前橋市フォークダンス協会
裏面もご覧ください

6

第6回（2015年）
ドイツフェスティバルinぐんま
～歌って踊って ドイツを楽しもう！～
日 時：平成27年6月26日（金）～28日（日）3日間／10:00～17:00
場 所：群馬県庁1階県民ホール／入場無料
6月26日（金） 13:30～
オープニングセレモニー
群馬県庁1階県民ホール
1 パネルコーナー パネル展示
■「日独ごみ問題比較」など
2 ドイツ製品紹介・販売コーナー ドイツ輸入品の紹介・販売
■ドイツ直輸入食品
（群馬県産もあり）
・パン・ソーセージ各種
・ワイン・ビール各種
・ロンネフェルト紅茶
・ハリボグミ
・岩塩（アルペンザルツ）
■ドイツ輸入製品
・木製玩具
・マイスター作アクセサリー
・ドイツ製時計
・整形外科靴（足型測定）
・ドイツの太陽光パネル
■ドイツ車フェア
3 音楽コーナー 音楽イベント
27日（土）
10:30 みんなで奏でよう♪ドイツ音楽コーナー①
11:30 資源ごみで音楽しよう！
13:30 ドイツのフォークダンス ～前橋市フォークダンス協会 ～みんなで踊ろう
14:30 ドイツの響き①～コールネルケ
15:00 みんなで歌おう！ドイツのうた
15:30 みんなで奏でよう♪ドイツ音楽コーナー②
28日（日）
10:30 資源ごみで音楽しよう！
12:00 ドイツの響き②～前橋市民吹奏楽団
13:00 ドイツのフォークダンス ～前橋市フォークダンス協会 ～みんなで踊ろう
14:00 ドイツの響き③～ぐんまトロンボーン協会
14:30 ドイツの響き④～コール・詩音
15:00 みんなで歌おう！ドイツのうた
「みんなで奏でよう♪ドイツ音楽コーナー」
応募締切：6月1日（月） 参加費無料
裏面もご覧ください

7

入場無料
2017
6/30（金）～7/2（日）
群馬県庁1階 県民ホール
6/30（金）10:00～18:00
7/1（土）10:00～17:00
7/2（日）10:00～16:00
開催時間が異なるのでご注意ください
第7回
ドイツフェスティバル in ぐんま
～ 学ぼう 食べよう 遊ぼう ドイツ!!～
パネルコーナー パネル展示
ベルツ博士とぐんま ～ドイツの温泉・群馬の温泉～
日本とドイツの交流の架け橋となったベルツ博士と
群馬の温泉のことを知りましょう！
ベルツ博士
ドイツ製品紹介・販売コーナー ドイツ輸入品の紹介・販売
●ドイツメルクリン製ブリキ玩具
秘蔵品多数展示！
●ドイツ直輸入食品
（群馬県産もあり）
パン、ソーセージ各種
ワイン、ビール各種
ロンネフェルト紅茶
●ドイツ輸入製品
ドイツ製玩具
ドイツ製アクセサリー
ドイツ製時計
テディベアコーナー
テディベアの展示・クマさん作り
●テディベアの展示
ドイツ製シュタイフベア、手作りクマさん、
テディベアイラスト、みんなのぬりえ、
ワイヤーベアー
●クマさん作り
手作りクマにチャレンジ
ベアぬりえも楽しみましょう
ドイツと日本 Zukunft gestalten ともに未来へ
主催 ぐんま日独協会

群馬とドイツのかかわり

ドイツ大使館内ぐんま展

『展示』ぐんまの中のドイツ
2007(平成19)年４月４～27日　ドイツ大使館中央ホールにて

ドイツ大使館の要望により、首題の展示会がドイツ大使館内ホールを会場にして約１ヵ月間開催された。群馬からトラックで関係資料を多数持ち込み、開催されたもので、ドイツ大使館主催のため、都内の中曽根康弘元首相をはじめ、県内外から多数の方々が来場され盛会だった。展示内容は下記の４点。とくに東京大学構内から借用したベルツ博士の胸像は圧巻だった。

1．ベルツ博士関連：博士胸像、肖像画、明治時代の草津のスケッチ等。
2．ブルーノ・タウト関連：洗心亭写真、肖像画、タウト創作工芸品等。
3．日独ロマンチック街道関連：両地区街道の写真・資料、姉妹都市紹介等。
4．上信電鉄関連：大正末期に使用したシーメンス製電気機関車関連写真及び資料。

展示風景／ブルーノ・タウト関連

来場者との交流
左よりデア大使、中曽根元首相、平形会長

群馬とドイツのかかわり

高崎・少林山達磨寺　洗心亭　1933(昭和８)年、ドイツの高名な建築家ブルーノ・タウトは、当時のナチスドイツからの迫害を避けるため来日。高崎市の井上房一郎氏の紹介を受け、高崎市鼻高町の少林山達磨寺洗心亭にエリカ夫人とともに２年３カ月滞在した。当時の国際情勢から、大きな建築物を手掛けることが不可能であつたタウトは、当地では竹を中心とした工芸品の製作・指導を行ったと言われている。現在、洗心亭には当時の数々の資料が保存されている。尚、タウトがドイツ時代、設計に関与したベルリンの勤労者用集合住宅はその後、世界遺産に指定されている。またタウトは京都の桂離宮及び伊勢神宮の建築美を高く評価、諸々の資料を通して世界に紹介したことでも知られている。

草津ベルツ記念館　東京医学校(現東大医学部)の教授として、1876(明治９)年に来日したベルツ博士は、26年間の長きに亘り日本に滞在し、人材育成を含め日本の西洋医学発展に大きく貢献した。またベルツは草津の自然環境の素晴らしさと草津温泉の泉質・時間湯入浴方式等に興味を持ち、論文をとおして、広く草津温泉を世界に紹介した。現在、草津町の入り口にベルツ記念館が建設され、数々の資料が展示されている。現在草津町は、ベルツ博士の生誕地ビィーティッヒハイム・ビッシンゲン市と姉妹都市提携を結び、活発な交流を続けている。

日本ロマンチック街道　草津町の中澤晁三氏(元当協会副会長)を中心とした関係者の尽力により、1988(昭63)年、日本とドイツのロマンチック街道間で、姉妹街道協定が締結された。日本のロマンチック街道は、長野県小諸市から群馬県の嬬恋村、草津町、長野原町、東吾妻町、中之条町、高山村、みなかみ町、沼田市、昭和村、川場村、片品村を通り栃木県の日光市まで全長320kmのコースで、北関東の観光発展を期して、ドイツのロマンチック街道に因んで命名された。その後、当協定を記念し、沼田市とドイツ・フュッセン市間で姉妹都市提携が結ばれ、今日でも活発な国際交流が続いている。

草津における全国日独協会連合会年次総会

2007(平成19)年４月24日～26日
於：草津温泉ホテル中沢ヴィレッジ 他

主　催：全国日独協会連合会
主　管：ぐんま日独協会
参加者：２１８名　〔参加者内訳〕ベルリン独日協会　13名
ドイツ大使館他　20名
全国日独協会関係　70名
青年・若手クラス　50名
ぐんま日独協会　50名
群馬県草津町関係　15名

日　程：4月24日　午後／草津町観光、
夜／たたみパーティー
4月25日　午前／総会・講演会
午後／３分科会
夜／ドイツ大使主催パーティー
4月26日　午前／群馬県庁・少林山達磨寺訪問

2007/4/24～26　2007全国日独協会連合会年次総会

全国日独協会連合会年次総会の開催にあたって

草津温泉中沢ヴィレッジで開催された全国日独協会連合会の総会は、ドイツ大使館デア大使、フィッシャー首席公使、東京日独協会木村会長代理（元駐独大使）、群馬県小寺知事等多くのご来賓、その上ドイツベルリン独日協会員13名の参加も得て、総勢計218名が参加し、盛大に行なわれました。

総会では、ドイツ人関係者を含めたパネルディスカッション、全国日独協会連合会年会費問題、若手育成プラン等の重要課題が熱心に討議されました。

開催地の草津町及び中沢ヴィレッジ様にも大変なご協力をいただき、実りある総会となりました。

なお、総会開催にあたり、ドイツ大使館のお力添えをいただきました。また、若手育成を目的としてダイムラーベンツ社からは多大なご支援をいただいたことを感謝いたします。

鈴木克彬

青年・若手クラス

たたみパーティー
中澤敬草津町町長

デア大使

ドイツ人少女フルートカルテット“FluTeens”演奏会

2015(平成27)年８月25日
於： 前橋市中央公民館３階ホール

フルート演奏グループ“FluTeens”

演奏会後に前橋市内の高校生と交流会

在独フルート講師福井茂子さんの高校生のお弟子さん４名のフルート演奏グループ“FluTeens”の演奏会を、ぐんま日独協会主催で開催。メンバーのうちの１人が卒業することを機にグループが解散することから、福井さんの故郷日本での演奏旅行を企画した。演奏会終了後は地元前橋市の高校生たちと交流会をもち、親交を深めた。

ドイツ大使の講演とレセプションの夕べ

2017(平成29)年11月28日
於： 講演／群馬県庁 ビジターセンター
レセプション／ 群馬會舘食堂

講演会

「大使が見た日独比較」

駐日ドイツ連邦共和国
ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン大使

講演会

ヴェアテルン大使が来県され『大使が見た日独比較』をテーマに講演。「日本とドイツは第２次大戦後の復興からして両国では国際環境の違いがあった」と話された。

レセプション

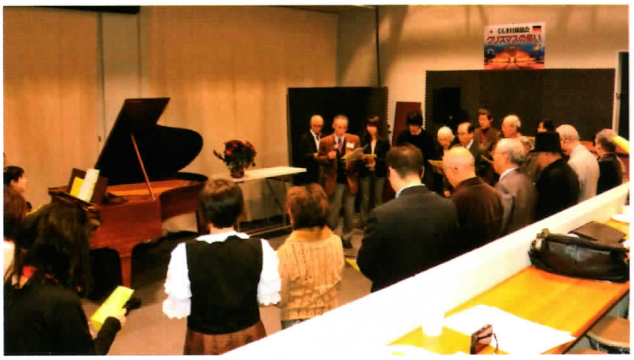
講演会終了後は群馬会館地下の群馬會舘食堂でレセプションが行われ、大使と親しく懇談を楽しんだ。

レセプション

親睦会

クリスマスの集い

クリスマスの集い
1995年12月9日 群馬會館食堂



クリスマスの集い
2013年12月21日 夢スタジオ別館

日独協会連合会若手の集い

2012(平成24)年７月14～15日
於： 国立赤城青少年交流の家（前橋市）

参加者：24名　日本人17名（群馬、東京、千葉、長野から）
ドイツ人６名、中国人１名

１日目テーマ：「若い人を集めるにはどうすればいいか」
２日目テーマ：「実際にどんなことができるか」

活動内容：ミーティング、バーベキュー、温泉体験など

赤城山中腹の国立赤城青少年交流の家（旧国立赤城青年の家）において、日独若者達の１泊２日の研修交流会が、日独協会事務局タベアさんと、ぐんま日独協会理事高野誠さん・広美さん夫妻の尽力で開催された。

定例活動

ドイツサロン

ドイツサロンは、2008(平成20)年6月6日に開設しました。

毎回、東京の日独協会事務局等からドイツ人研修生に参加いただき、ドイツ語の会話をすることもできます。生のドイツ情報を聞いたり国民性、文化の違いなどのお話などさまざまなテーマで情報交換をします。ドイツ人研修生は日本語も堪能で、ドイツ語ができなくても心配ありません。

サロンには下記の要項で毎回20～30名が参加し、ドイツの鉄道、ドイツ語、旅行、車、デザイン、環境問題、音楽、芸術などさまざまなテーマで楽しく意見交換や交流を図っています

なお、ドイツサロン開設時には、ドイツ大使館ラインハルト・トークラー一等書記官から諸々のご指導を頂きましたことに感謝申し上げます。

鈴木克彬

トークラー一等書記官

ある日のドイツサロン

ドイツサロンにようこそ

開催日時：毎月第1土曜日 14:00-17:00（途中の出入り自由）
開催場所：陶豆屋（高崎市石原町 3235）
参加資格：ドイツに関心のある方はどなたでも
参加費　：紅茶またはコーヒー代として 500 円（お代わり自由）
その他　：① 毎回必ずドイツ人を招きます。
② できればマイカップ持参
③ 駐車は隣の NPO 法人ハートフルの駐車場をご利用ください。

ドイツ語教室

前橋教室と高崎教室を一般公開で行っています。
前橋教室：毎月第２日曜日　於 前橋市中央公民館
高崎教室：毎週日曜日（但しドイツサロンの次の日はお休み）於 陶豆屋

前橋教室

高崎教室

クマさんづくり

前橋市中央公民館で毎月最終木曜日に開催。非会員も参加可能。

生まれたてのベア

テディベアの仲間たち

ドイツ語ニュースを聞く会

2018(平成30)年２月17日より開催。
１・２・４・５・７・８・10・11月の第３土曜日に前橋市中央公民館で開催。
会員限定。

ドイツ映画を見る会

2018(平成30)年３月17日に第１回を開催。
開催日は３・６・９・12月の第３土曜日。

社会との絆

ヴィーラント全集の寄贈

ぐんま日独協会から群馬大学へ
ヴィーラント全集を寄贈

1989(平成元) 年にぐんま日独協会から群馬大学にヴィーラント全集が寄贈された。

これは協会員であり群馬大学教授(現名誉教授)である白倉卓夫先生が、かつて勤務していた南ドイツ・オーバーシュバーベン地方のビベラッハに立ち寄った際"Japanische Eindrücke von Biberach"(日本人のビベラッハの印象) と題する講演をおこなったことに対するビベラッハ市長からのお礼としての贈り物である。市長のドイツ文学の研究機関へ寄贈してほしいとの意向に沿ったものである。

Christoph Martin Wieland(1733～1813年) は日本ではなじみは薄いが、この町の出身で今ではこの町の象徴的人物として尊敬され、町の中心にはヴィーラント博物館もあって、膨大な資料が展示、保管されている。

群馬とドイツの国際交流を進めていくうえで大変意義深いものがあると思われる。

ビベラッハの街並み

前列左から前川群馬大学学長、平形会長、
後列左から２人目が白倉教授

鈴木克彬会長のテレビ出演

2012(平成24)年6月6日～2015(平成27)年12月１日

『NEWS JUST6 ニュース ジャスト シックス』(群馬テレビ、18:00～) にコメンテーターとして月に１回、３年半の間に46回出演した。
放送では、日独の生活・文化の特徴・違い等をわかりやすく説明した。

〔放送内容〕－抜粋－

- **挨拶**：握手するドイツ人、お辞儀する日本人。
- **イエス・ノー**：明確なドイツ人、曖昧な日本人。
- **地下室**：上手に使うドイツ人、地下を使わない日本人。
- **鉄道**：改札口のないドイツ、Suica 等を駆使する日本人。

環境問題パネル展　2015(平成27)年6月26～28日　於：群馬県庁（前橋市）

第６回ドイツフェスティバル in ぐんまパネル展

ドイツでは容器包装材はごみの中の約50%を占めていることに着目し、その削減こそが全ごみの削減につながるとの基本理念から、全ての製造会社に削減とその処理費用（収集・選別・搬送・処理）の全額を負担させているため、必然的にごみは減りかつ環境に優しい方向に向かっている。一方、日本でもその理念や組織立てに習ってプラスチック容器や紙のリサイクルに重点を置いた政策を実施しているが、費用の大部分は税金で賄われているためメーカの寄与はドイツには遠く及んでいない。国家的な事業として削減に厳格に取り組んでいるドイツの政策や理念についてはもっともっと研究して取り組む工夫が必要と思われる。

会場では突っ込んだ意見交換もなされ、ドイツの取り組みに賛同する来場者も多数みられた。

高崎経済大学交換留学生交流会　2016(平成28)年7月8日　於：高崎経済大学（高崎市）

第１回高崎経済大学ドイツ人交換留学生交流会

ドイツ・ルートヴィヒスハーフェン経済大学から高崎経済大学への交換留学生と日本人学生との積極的な交流を支援する目的で交歓会を弊協会が大学の支援を得て主催している。学生同士の交流が進み、また日本人学生にドイツのことを少しでも理解してもらえればありがたい。

ぐんま日独協会会員名簿

平成30年度ぐんま日独協会役員名簿

会　長	鈴木克彬			
副会長	對馬良一	西田洽司	島田卓爾	田口久美子
	中澤 敬			
常任理事	橋爪洋介	中島資浩	広瀬正史	角田 登
	川田正彦	冨所敏浩	川島孝一	末永秀雄
	福田朋英	北爪和男	曽我隆一	熊川 栄
	澤田まゆみ	冨所民江	末永マサ子	渋川ミドリ
	堀口靖之	金井康夫	白倉卓夫	宮原喜利雄
	遠藤 功			
理　事	三井 聡	川田正江	立川統子	高野 誠
	高野広美	白倉由美子		
監　事	豊泉伊三男	杉本隆雄		
特別顧問	黒田とめ子			
顧　問	小林 喬	小林ドリス	富岡恵美子	井口 実
事務局長	近藤基晴			
事務局次長	井上晃良	平方秋夫		
会　計	平方秋夫(兼)	鈴木和子		
事務局員	鈴木剛一郎	吉田博文	大熊富吉	瓜生郷子
	新井 徹	長谷川早苗	成田美和	黒田桂子
	近藤洋美	宮越リカ	日向泰史	岡 博子

編集後記

まだ春陽の嬉しい頃、創立30周年記念誌の制作に向け、編集委員会が結成されました。それから月々の編集会議を重ね、このたび無事に『30年のあゆみ』を上梓することができました。

30年間に残された多くの資料やことばは、限りない希望と向学心、チャレンジ精神に溢れていました。これらの礎に誇りと確信を持って作業に取り組めたことは、編集委員としての醍醐味であったかもしれません。

制作にあたって、お言葉を寄せてくださった方々、新聞記事を提供してくださった上毛新聞社様、大切な写真や情報を提供してくださった方々に、あらためて感謝申し上げます。

表紙のイラストはグリム童話の赤ずきんちゃんです。ぐんま日独協会もドイツの森を目指して、これからも歩み続けていくことでしょう。

創立30周年記念誌編集委員長　大木静花

創立30周年記念誌編集委員

遠藤　功	大木静花	岡　博子	近藤基晴
杉本隆雄	鈴木克彬	對馬良一	平方秋夫
宮越リカ	宮原喜利雄		

表紙イラスト／細井玲子

ぐんま日独協会創立30周年記念

３０年のあゆみ

発　行　日　2018年11月11日
編集・発行　ぐんま日独協会
創立30周年記念誌編集委員会
〒371-0105
群馬県前橋市富士見町石井2445-219（鈴木方）
TEL&FAX　027-288-4297
e-mail　info@jdg-gunma.jp